

中学校 2 年

単元内自由進度学習

八尾市立成法中学校

教科

数学

単元名

連立方程式の利用

日時・クラス・授業者

- ・日 時：令和7年6月16日（月）3時間目
- ・クラス：2年1・2組
(2クラス3展開の分割授業：1組教室(28人)、2組教室(24人)、学習室(16人))
- ・授業者：田中・辺見・山下

単元のねらい

単元末・期末テストに向けて、見通しを立てて学びを進められるよう、自分をコントロールする。

本時のねらい

連立方程式を利用して、身のまわりの問題を解決できる。

本時における「個別最適な学び」と「協働的な学び」のポイント

自由進度学習を展開する。自分のペースで、自分に合った方法で、学習を進める。
また、学習者から援助要請があった際も、学習者同士で課題を解決できるよう促し、協働的な学びにつなげる。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

ロイロノート(解説動画・解答解説プリント)
解説動画を視聴する場合は、片耳イヤホンを使用する。

本時で育む主な情報活用能力

E-STEP 4, K-STEP 4

該当番号の詳細内容は
「大阪府情報活用能力
ステップシート」から確認できます。



本時の展開（第1時/全3時間）

学習の流れ	主な学習活動と内容	指導上のポイント・工夫
導入 (10分)	・スピード80に取り組む。(演習・自己採点・記録) 単元のめあて「見通しを立てて自分をコントロールする」 ・この単元のプリントがまとめてとじられた冊子を受け取り、単元課題を確認する。学習計画表(単元目標・本時の計画・自分目標)を記入する。	・冊子全体に目を通してから、自分で1時間の目標を立て、目標を達成できるように学習方法、時間配分を計画させる。
展開 (35分)	自由進度学習を進める。 ・授業プリントの指定されたところまで進めた段階で、授業者からのチェックを受け、黒板に掲示された進度表に○をつける。 ・授業プリントの進め方は自由。自分が学びやすい方法で進める。 (解説動画・解答解説プリント・教科書・友達と相談など)	・進度表を活用することで、クラス全員の進捗状況が学習者も授業者も一目でわかるので、学習者はわからない問題を誰に聞けばよいか分かりやすいようにしている。 ・解説動画はロイロノートの資料箱に入っているので、授業時間内外問わず、必用なときに視聴することができるようにしている。 (授業内では片耳イヤホンを使用する。) ・授業プリント問題は、A・B・Cと難易度別にわかれており、学習者自身に合った問題に取り組むことができるようにしている。 ・授業者によるプリントチェックの際、そのプリントの内容に沿った口頭質問を行う。その質問をクリアできた場合は、授業プリントの評価をAとする。(主体的に学習に取り組む態度)
まとめ (5分)	・学習計画表(ふりかえり)を記入する。	・学習者自身の学習進捗状況と学習方法についてふりかえらせることで、次回の学習計画に役立てさせるようにしている。(YWTによるふりかえり手法)

授業者の声～情報活用能力をはぐくむポイント～

- 自由進度学習を進めるための環境づくり
・単元内の授業プリントをすべてまとめ、ホチキスどめた冊子を第1時に配布する。
→冊子の1番目には学習計画表をとり、学習目標・計画・ふりかえりが行いやすいようにした。
・進度表の活用
→学習者一人ひとりの進捗はそれぞれ異なるが、進度表を活用することで学習者も授業者もクラス全体の進捗状況が把握しやすい。また、学習者は誰に援助要請をすればよいか、誰が困っているかがわかり、協働しやすい環境になる。
・解説動画の配信
→学習者一人ひとりの習熟度が異なる中で、個別最適な学習を進めるため、必要なときに動画を視聴できるようにした。解説がなくてもどんどん進められる学習者は動画を視聴する必要はない。逆に、一度の説明で理解が追いつかない学習者は、繰り返し何度でも視聴できる。
- 協働・教えあいを促す
・人に教えることが自分の理解を整理する最大のアウトプットであることを事前に数学科通信（math math つうしん）を通して伝えている。
・自由進度で進めっていると、学習者は授業者を頼って質問をしにくる。学習が進まなくなったときに、このような援助要請をする姿勢は大切にしたいが、その際、授業者から簡単にヒントを与えるのではなく、「その問題〇〇さんができていたよ。」のように、できるだけ学習者同士で解決できるように促す。
- 自己調整能力を育む
・YWTによるふりかえり手法(学習計画表)を活用することで、経験したことから自分の学びを落とし込み、次の活動に生かすというサイクルをつくる。